くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

KUMAMOTO ARTPOLIS NEWS

Vol.46
2021.3

くまもとアートポリス インスタグラムコンテスト2020 優秀作品

地域に息づく魅力ある建築物に触れることで、建築文化や都市デザインに興味関心を持ってもらうことを目的として「人×建築」をテーマにインスタグラムコンテストを開催しました。400点の投稿の中から厳選の優秀作品10点をご紹介します。

阿蘇市内牧 @sayuri827

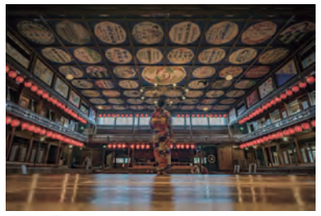
牛深ハイヤ大橋 @fuchigraphy

馬見原橋 @goma2

湯の児海水浴場 @_naography_

くまモンポート八代 @saw.c

祇園橋 @fuchigraphy


八千代座 @naoki_photo.graphy

瀬戸歩道橋
@hirosakimisa_jewelrytrunk

牛深ハイヤ大橋 @fuchigraphy

三角港フェリーターミナル
@hirosakimisa_jewerltrunk

#artpolis_2020

発 行 くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築住宅局建築課内

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
TEL.096-333-2537 FAX.096-384-9820
e-mail kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ　facebook　twitter　instagram　Pinterest　YouTube

発 行 者:熊本県
所　　属:建築課
発行年度:令和2年度
(2020年度)

CONTENTS

くまもとアートポリスプロジェクト
株式会社エバーフィールド木材加工場
新築設計　公募型プロポーザル
被災した公民館を再建する「みんなの家」
南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザイン
U-35 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ
公開設計競技2020
熊本地震震災ミュージアム中核拠点施設
熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト

2020
5.15
FRI

くまもとアートポリスプロジェクト

株式会社エバーフィールド木材加工場 新築設計　公募型プロポーザル

審査員長｜伊東 豊雄（建築家、くまもとアートポリスコミッショナー）

審 査 員｜久原 英司（株式会社エバーフィールド代表取締役）
桂　英昭（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー）
末廣 香織（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、九州大学准教授）
曽我部 昌史（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、神奈川大学教授）

架構自体が美しい、新しい木造空間

株式会社エバーフィールドは、平成28年（2016年）に発生した熊本地震の際、木造仮設住宅と木造集会施設「みんなの家」の建設に携わった。また、「くまもと型復興住宅」の建設や木造災害公営住宅の建設という新たな取組みにも携わり、地域の工務店として熊本地震からの復旧・復興に取り組んでいる。このような経験を踏まえ、災害時に住まいの再建の原動力となる木造建築産業のさらなる活性化を目指し、木造建築の担い手である大工の育成のため、技術力の向上を目的とした研修等に活用できる施設として木材加工場の整備を計画した。加工場の整備にあたっては、「くまもとアートポリス」の理念に賛同し、県産流通木材を使用した、架構自体が美しい、新しい木造空間を目指して、くまもとアートポリス114番目（民間事業としては7番目）のプロジェクト事業として公募型プロポーザルで実施された。

全国から応募のあった44件の中から、一次審査を通過した5者による公開プレゼンテーションを行う予定であったが、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止の観点から審査方法を変更して二次審査を実施した。一次審査通過者のプレゼンテーション動画による審査や、メールによる質疑応答などリモート形式の審査を行い、最優秀賞等を選定した。

最優秀賞に『小川次郎/アトリエ・シムサ＋kaa』、優秀賞に『倉掛・秋山・井上・川崎建築設計共同企業体』、そして佳作に『合同会社白川在建築設計事務所』、『水上哲也建築設計事務所一級建築士事務所』、『山下貴成建築設計事務所』を選定した。講評として伊東審査員長は「最優秀賞の提案は、最もリスキーな要素も多いが、圧倒的な独創性を持った提案であることが審査員一同で共有され、実現した折には広く見学者がやってくる斬新な建築になると確信している」と述べた。

プロポーザルの概要

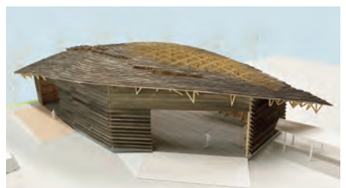
2019年10月29日	応募要項発表
2020年 1月15日	応募締切
2020年 1月30日	一次審査
コロナ禍により二次審査をリモートにて実施	
2020年 5月15日	最終審査結果の公表

事　業　概　要

建 設 主／株式会社エバーフィールド
建 設 地／上益城郡甲佐町大字府領地内
計画条件／木造 平屋
延べ面積 600㎡程度
20mスパンの大空間

最優秀賞　小川次郎／アトリエ・シムサ＋kaa

小中断面の県産流通木材による「木造レシプロカル構造」を用いた、周辺環境に対し「呼吸する」ように佇む建築。小さな構造の単位が場所ごとの条件に応じ、カーブする屋根や壁になる提案。建物の施工自体が大工の技能研修の場となる。



優 秀 賞　倉掛・秋山・井上・川崎 建築設計共同企業体

伝統木造の継承、地域資源を生かした「アーチトラス構造」で、住宅スケールから突出しない切妻屋根の建築。トップライト、深い軒、通気ガラリを利用した自然エネルギーによる快適な作業環境の提案。

佳　作　合同会社 白川在建築設計事務所

「卍キール梁」により分節された 4 枚片流れ屋根による水平天井を持つ建築。周辺環境を読み解き、建物内外に職人や地域の方の活動の場となる場所を提案。

佳　作　水上哲也建築設計事務所 一級建築士事務所

ゾーニングに併せてサイズを調整する「ルーバー」により、屋根から多様な光を生み出す建築。まちとつながる加工場をコンセプトとした提案。

佳　作　山下貴成建築設計事務所

「重ね透かし梁」を格子に組み合わせる、社寺建築に用いられる斗栱（ときょう）を応用した建築。周辺住民が短冊板にメッセージを書くワークショップを提案。

2020
11.14
SAT

株式会社エバーフィールド木材加工場 モックアップ現場見学会

開催場所｜株式会社エバーフィールド木材加工場建設予定地

意匠、構造、そして施工の三つ巴で
木造レシプロカル構造の可能性を探る。

相互に力をかけることで支え合う木造レシプロカル構造を採用した本プロジェクト。屋根と壁を一体的につくる軸組で、大きな空間を生み出すことができる構造であり、施工技術者の研修の場としても意義のあるプロジェクトとなる。施主であり施工者でもある株式会社エバーフィールド久原氏の発案により、実物大サイズのモックアップを製作することで、今後の建築計画に生かす取り組みとした。出来上がったモックアップは、駐車場のゲートとして利用される予定。構造体や組み立てる順番などの検証につなげるため、3Dモデリングデータをもとにプレカットを行い、モックアップ現場での試行錯誤を行ったうえで、本番の加工場建設に移行する。今回の見学会は、設計、行政、施工関係を中心に、コロナ禍対策で人数を制限し、午前、午後の 2 部制で行なった。意匠、構造の設計者による説明後、モックアップ現場を見学。設計者、施工者、さまざまな視点による意見が交わされた。

設計者コメント

【意匠】有限会社アトリエ・シムサ　小川次郎氏
【構造】株式会社山田憲明構造設計事務所　山田憲明氏

今回のプロジェクトは、意匠と構造の設計者、そして施工者が意見を交わし合い、フィードバックしながら技術を共有する、建築として正しい姿を実現できています。モックアップをつくることで、解決すべき課題を検証する事ができ、新しいものづくりの形であるといえます。熊本県は木材の先進県でもあります。3D データでの構造解析、高性能なプレカット、そして職人の技術の組み合わせで、このような難しい建築に挑むことは意義のあることだと思います。

施主・施工者コメント

株式会社エバーフィールド　代表取締役 久原 英司 氏

今回の木材加工場は、大工の働く場をつくることも大きな目的としています。その加工場がアートポリスのプロジェクトとして参加することで、大工の技術向上につながることも考慮に入れていました。選ばれた設計は、審査の段階で施工のイメージが一番できなかったもの。木造建築の未来のため、技術力を結集してチャレンジすることに意義を感じ、前例のないものを選びました。まだまだ多くの課題がありますが、地元・熊本で、このような難しい施工が可能であることをアピールしていきたいと思います。

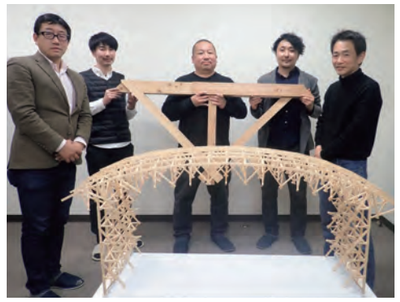
参加者のコメント

今回のモックアップ見学を通じて、現場の苦労が手に取るようにわかりました。こういったケースは珍しく、その考え方を知ることができてとても意義深いと感じました。（設計関係・男性）

事務所棟の施工をしたご縁で今回の見学会に参加しました。手加工で難しそうな箇所を見ることができ、さらに木材加工の可能性を感じることができた見学会でした。（施工関係・女性）

受賞者コメント　最優秀賞　小川次郎／アトリエ・シムサ＋kaa

今回のプロポーザルでは「美しく、新しい木造空間を求める」という、取り組み甲斐のあるテーマが掲げられていました。これほど簡潔に、かつ力強く建築の可能性を標榜したプロポーザルは、近年記憶にありません。私たちの提案が、こうした高い理想に少しでも近づけたとしたら、正に望外の喜びといえます。今後は良い状態で提案を実現できるよう、努力を重ねていきたいと考えています。



一次審査通過者によるプレゼンテーション動画、
模型・CG 動画は熊本県ホームページで公開しています。

2020
7.31
FRI

くまもとアートポリスプロジェクト

U-35 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ 公開設計競技2020

審査員長｜伊東 豊雄（建築家、くまもとアートポリスコミッショナー）
審 査 員｜桂　英昭（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー）
末廣 香織（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、九州大学准教授）
曽我部 昌史（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、神奈川大学教授）

35歳以下を対象とした公募型コンペを実施

熊本市の中心部から東北に位置する標高152mの立田山は、市街地に残された貴重な自然緑地。都市化の進展とともに行われる緑地の開発を防ぎ、県民の生活環境を保全するため、自然の森に復元し、憩いの場をつくることで生活環境保全林「立田山憩の森」として、多くの県民の健康づくりやふれあいの場として活用されてきた。今回の設計競技は、熊本市北区立田山憩の森・お祭り広場に、県が建設する公衆トイレの設計者を広く公募したもので、くまもとアートポリス115番目のプロジェクト事業として実施された。

35歳以下の若手技術者を対象に公開設計競技を行い、アートポリスプロジェクト事業として史上最多の279件もの応募が全国からあり、応募者、一般来場者が参加できる公開審査を開催する予定であったが、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止の観点から審査方法を変更して実施した。事前審査で10案を選定し、メールによる質疑応答を経て審査員のみのリモート形式による審査を行ったが、図面や書面だけの判断には限りがあるという意見があり、急遽3作品に絞りこみ、日を改めて応募者と審査員がリモートで直接質疑応答を行った。その結果、最優秀賞に『森と人の輪／曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二』、優秀賞に『立田山と呼応する屋根／占部将吾＋佐藤元樹＋西島要』、佳作として8作品が選定された。講評で伊東審査員長は「審査員一同、応募者のフレッシュで熱いエネルギーを感じることができたのが一番の収穫」と述べた。

公開設計競技の概要

2020年 4月 6日 ｜ 応募要項発表
コロナ禍により提出物、審査方法を変更
2020年 6月22日 ｜ 応募締切
2020年 7月 8日 ｜ 事前審査結果の公表
2020年 7月31日 ｜ 最終審査結果の公表

応 募 資 格

応募締切時点で満 35 歳以下の方

事 業 概 要

建 設 地／ 熊本県熊本市北区乗越ヶ丘（立田山憩の森）
施設概要／ 公衆トイレ 木造平屋 延べ面積 50㎡以内

最優秀賞

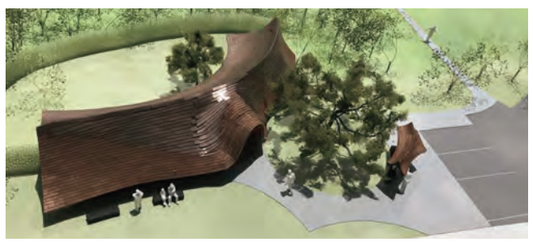
「森と人の輪」
曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二

自然（広場・森）と人（散策・車からのルート）の接点となる位置に、小径の丸太材でレシプロカル架構の環状屋根を架け、トイレと共に憩いの場を配置する提案。小径の間伐材を活用することで、間伐材に付加価値を与える。

優秀賞

「立田山と呼応する屋根」
占部将吾＋佐藤元樹＋西島要

神社の唐破風を想起させる「檜皮葺」と「銅葺き」の大きな曲面屋根が特徴。日本の精神や伝統技術の魅力を伝える建築を目指す。トイレの中から立田山の自然豊かな風景を望むことができる空間構成。



佳　作

「共生の光」
佐河雄介＋辻拓也

CLTパネルを持ち送り構造により外側にずらし、カテナリー曲線で描く屋根を持つ自然と共生する建築。

「Birdhouse Toilet」
松田裕介

小さな建築をランドスケープの中に散りばめて配置し、新しい生活様式へ対応した建築のソーシャルディスタンスの提案。

「Leafy Roof Lavatory -安らぎの屋根が作るみんなの憩いの場-」 幾留温

木の葉のような形状のやわらかな曲線を描く屋根が、訪れた人々に優しい木陰を提供する憩いの場となる計画。

「『森林ミュージアム』のレストルーム」
葛島隆之

機能分散により使う人が選択できる様々なトイレを庭と一体化させて配置させた美術館の展示室のような提案。

「マチ山の教室　マチの中にある山の中の学びの拠点」
菊井悠央＋本山真一朗

地域活動の情報と学びの拠点となるトイレの提案。
既存トイレを生かし、みんなで考え、みんなでつくる計画。

「木とコンクリートとガラスの積層フォリー」
山田健太朗

集塊岩が積層した立田山に、集成材・CLT、コンクリートブロック、ガラスブロックなど異なる素材を積層する建築。

「立田山の訪礼堂」
岩崎裕樹

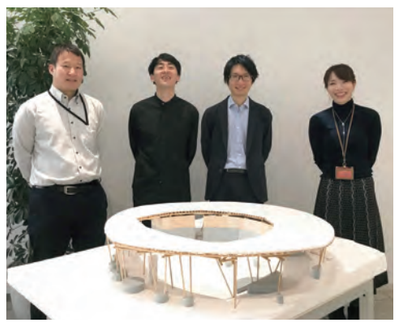
用を足すこと自体が、教会や礼拝堂での祈りのように象徴的な体験となるような訪礼堂（トイレット）の提案。

「PRIMITIVE HUT　憩いの森の憩いの場」
太田裕通＋北村拓也

森と広場に抜けるようなヴォイドを穿ち、光・風の通り道としながら、風景との出会いを創出する建築。

受賞者コメント
最優秀賞　森と人の輪 / 曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二

「立田山の豊かな自然との調和」、「丸太の使用による林業活性化」、「衛生面の配慮」をコンセプトに据え、森と人が共生できる場所を作りたいと考えました。「丸太」による構造架構は、森の循環に寄与する1つの解決策になると考えています。公開された他の応募者の方々の貴重な視点や、審査員の方々に頂いたご意見を大切にし、立田山を訪れるみなさまに愛される施設を実現していきたいと考えています。



佳作も含めた10者の提案作品、
伐採ワークショップの概要は熊本県ホームページで公開しています。

2020
11.7
SAT

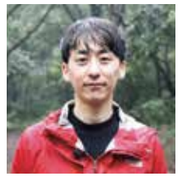
立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ 伐採ワークショップ

開催場所｜熊本県林業研究・研修センター

公衆トイレの柱として使う丸太材を、立田山の中の広葉樹から選んで伐採する。

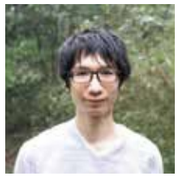
立田山の公衆トイレプロジェクトでは、柱に間伐材などの丸太材を使う計画。その柱の一部として使う木材を立田山の広葉樹から選定・伐採するワークショップを開催した。丸太材は、その自然の曲線美を建物の意匠として活用することで、近隣の自然と一体感のある施設にする目的がある。ワークショップには、熊本県立大学の学生が参加した。設計者からプロジェクトの概要説明後、その意図に沿った樹木を選定し、伐採する一連の作業を3チームに分かれて行った。小雨が降る中、樹種やその形、大きさなどを確認しながら森林を歩いた。枝振りや曲がりなどを、建物のどの部分で利用するか、イメージを膨らませ、議論を交わしながら候補の丸太を10数本に絞り込み、最終的に伐採した。今後乾燥工程を経て、最終的には6本程度を柱材として使用する予定である。

設計者コメント



【意匠】株式会社 山下設計　坂本達典氏

自然豊かな公園で、その環境にとけ込み、公園での体験をサポートできる施設をめざしました。立田山にある広葉樹の丸太を使うことは、自然にとけ込むために必要な要素でした。今回は柱になる木材を選びましたが、取っ手やフック、照明などに使えそうな木材も見つかり、さらにイメージが広がりました。



【構造】株式会社 山下設計　曽根拓也氏

ワークショップでは広葉樹を使うことを前提に行いました。あえて曲がり材を選ぶことで、同じ土地で育ったものの風合いを構造として生かすつもりです。森林の健全な維持のために間伐材利用をプロジェクトの軸に据えています。丸太材を使えば、無駄にするところが少なく、小さな径でも柱として使える利点があります。

参加者のコメント

自分たちで選んだ木材が、今回の施設にどのように生かされるのか、できあがりが楽しみでしょうがありません。建築を学ぶ学生として、とても勉強になりました。
（大学4年生：飯星裕貴さん）

ワークショップで広葉樹を探す時は、どの形がおもしろみがあるのか、どう使われるのか、いろいろ想像して選びました。できあがった後のみんなの反応が楽しみです。
（大学2年生：塩谷葵さん）

柱として使う木を選んで、伐採するという経験は貴重。構造や意匠のことを学んだうえで、どのような樹木を選んでいくのか、そのプロセスが楽しかった。
（大学4年生：田北実早紀さん）

進行中プロジェクト

被災した公民館を再建する「みんなの家」

南阿蘇村立野駅区

「日本財団わがまち基金」を活用し、被災した10地区の地区公民館を再建し、「みんなの家」とするプロジェクトを進めている。

南阿蘇村立野駅区のみんなの家は、避難所機能を付加するとともに、住民が集まることのできる天井の高い大きな空間と水回りや倉庫を納めた天井の低い小さな空間が併存するワンルームを、シザーズトラスの構造体で実現。玄関には炊き出しやバーベキューなどさまざまな形で利用可能な、人々が集まりやすい軒下空間を設けることで、より立ち寄りやすくなるように計画。みんなの家の窓、土間からは四季折々の風景が楽しめるようになっている。

- 構造・階数　木造・平屋
- 延べ面積　99.4㎡
- 施工者　株式会社小川工務店
- 竣工　2020年4月

写真提供：アトリエ・ワン

熊本地震震災ミュージアム中核拠点施設

熊本県では、熊本地震により県内各地に広範囲に出現した断層等の震災遺構とともに、観光施設等をつなぐ“回廊形式”のフィールドミュージアムの整備を進めている。このフィールドミュージアムの中核拠点となる阿蘇地域に整備する体験展示施設を113番目のくまもとアートポリスプロジェクトとして取り組んでおり、令和２年（2020年）2月に実施した公募型プロポーザル公開審査で、「o+h・産紘設計JV」が選定された。現在、コロナ禍でこれまでのように県内外の自由な往来ができないことから、オンラインツールを活用し関係者との協議を重ねている。阿蘇の雄大な風景に呼応しながら、「自然と人間のつながりを感じ、自然とともに生きることを考える場」の創造を目指して基本設計を進めている。

- 構造・階数　木造・平屋
- 延べ面積　1300㎡程度
- 設　計　者　o+h・産紘設計 JV

南阿蘇鉄道 高森駅周辺再開発

南阿蘇鉄道の全線復旧を見据え、高森駅の建て替えや駅周辺の再開発を行う112番目のくまもとアートポリスプロジェクト（以下KAPプロジェクト）。令和2年（2020年）11月21日には、漫画『ONE PIECE』と熊本県が連携した「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」の一環で、フランキー像が既存駅舎の高森駅前に設置された。フランキー像が復興のシンボルとして親しまれKAPプロジェクトが南阿蘇鉄道沿線地域の復興の歩みを大きく後押しできるよう取組みを進めている。

高森駅周辺再開発の工事スケジュール

令和３年度（2021年度）　土木、排水等工事
令和４年度（2022年度）　新駅舎工事
令和５年度（2023年度）　防災交流棟工事

熊本地震仮設住宅団地の「みんなの家」を新たなコミュニティ形成の場に

熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト

アートポリス事業の一環として進めていた、熊本地震における「みんなの家」プロジェクト。応急仮設住宅団地内に84棟が整備された。熊本地震から住まいの再建が進み、仮設住宅団地の閉鎖に伴い「みんなの家」も役割を終える。この「みんなの家」を新たなコミュニティ形成の場や地域づくり拠点に生かすため、移築などによる利活用プロジェクトを進めている。

菊陽町 菊陽南小学校放課後児童クラブ

みんなの家2棟を移築・合築し、菊陽町の小学校区の放課後児童クラブとして活用された。内部はもとのみんなの家の特徴を生かした木のあたたかみがある空間となっており、木の香りがして落ち着くと利用する子どもたちにも親しまれている。

- 設 計 者　株式会社ロジック
- 施 工 者　株式会社ロジック
- 延べ面積　76.00 ㎡
- 完成時期　2020 年 4 月

西原村 袴野地区集会所

西原村小森第三仮設団地のみんなの家2棟を移築・合築。限られた土地で移築する難しさはあったものの、キッチン棟と25畳の広間がある本棟をL型に組み合わせることによって地区の豊かな景観に馴染んだ建築を実現した。区長の山田氏は「この新しい集会所も50年以上は親しんでいきたい。西原村の情報発信拠点として利用していきます。」と語っている。

- 設 計 者　株式会社セルアーキテクト
- 施 工 者　高橋工務店
- 延べ面積　94.67 ㎡
- 完成時期　2020 年 7 月

西原村 星田地区公民館

西原村小森第四仮設団地のみんなの家2棟を移築・合築。被災した公民館を解体し、地域の人たちが花見に訪れる桜の木があり、集まりやすい広場だった場所に移して、新たな公民館として生まれ変わった。区長の大川氏は「地域のみなさんの協力があってこそいい形で実現できました。愛される建物になるように願っています。」とコメントした。

- 設 計 者　株式会社産紘設計
- 施 工 者　有限会社フルケン
- 延べ面積　72.87 ㎡
- 完成時期　2020 年 7 月

益城町 田中行政区公民館

益城町小池島田仮設団地のみんなの家1棟を移転。深い軒下空間に広い縁側など既存の建物形状を最大限生かしたプランとなっている。特徴的であった玄関横の朱色の壁面を含めた外観の佇まいが継承されており、熊本地震の記憶を留めつつ、新たな地域の拠点として活用されている。

- 設 計 者　森繁
  森繁・建築研究所
- 施 工 者　株式会社五瀬建築工房
- 延べ面積　65.08 ㎡
- 完成時期　2020 年 8 月

御船町 七滝中央小学校放課後児童クラブ

みんなの家1棟を曳家により移築し、小学校区の放課後児童クラブとして活用された。曳家工事にあたっては、施工者の協力のもと隣接する保育園の園児たちが曳家を手伝うイベントが開催された。

- 設 計 者　株式会社エバーフィールド
- 施 工 者　株式会社エバーフィールド
- 延べ面積　42.97 ㎡
- 完成時期　2020 年 11 月

御船町 ふれあい広場交流施設

みんなの家3棟が移築・合築し、震災後に応急仮設住宅の敷地として活用された公園内の交流施設として生まれ変わった。公園内には県が進める「ONE PIECE復興プロジェクト」によりブルック像も設置され、熊本地震からの復興のシンボルとなっている。

- 設 計 者　株式会社エバーフィールド
- 施 工 者　株式会社エバーフィールド
- 延べ面積　85.94 ㎡
- 完成時期　2020 年 12 月

甲佐町 府領区公民館

甲佐町白旗仮設団地のみんなの家2棟を移築・合築。80名程度が一堂に会することができる大広間や小上がりの畳の間等、様々な地区の行事に対応できるプランとなった。いくつかの案の中から住民の方に選ばれた梁・天井のカラフルな塗装が特徴的。府領地区の本田氏は「みんなの拠りどころや災害時の避難所として活用していきたい」とコメントした。

- 設 計 者　渡瀬正記＋永吉歩
  設計室
- 施 工 者　株式会社五瀬建築工房
- 延べ面積　108.63 ㎡
- 完成時期　2020 年 12 月

南阿蘇村 新阿蘇大橋展望所

地震により崩落した阿蘇大橋の架け替えとなる「新阿蘇大橋」に併せて整備された展望広場内の休憩所として、南阿蘇村陽ノ丘仮設団地のみんなの家が活用された。外壁には仮設住宅の縁側等として使われていた木材が活用され、熊本地震の記憶と教訓を語り継ぎ、未来へとつながる、新たな地域の拠点となることが期待される。

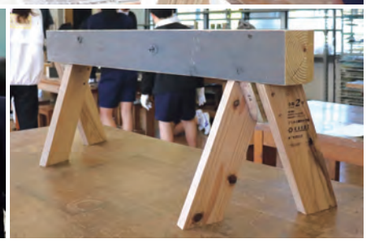
- 設 計 者　古森弘一
  古森弘一建築設計事務所
- 施 工 者　株式会社エバーフィールド
- 延べ面積　34.78 ㎡
- 完成時期　2021 年 2 月

2020
11.5
THU

熊本地震 応急仮設住宅・みんなの家
廃材活用プロジェクト

宇土市網田小学校ワークショップ

開催場所｜宇土市立網田小学校　　参加児童｜12人
講　　師｜佐藤 哲（熊本県立大学准教授）　　ボランティアスタッフ｜学生3人（熊本県立大学）



廃材を利活用して、学校のスツールをつくるワークショップ。

熊本地震の応急仮設住宅やみんなの家の解体に伴い、廃材を再利用する取り組みの一環として、小学生に向けた木材のワークショップを開催。熊本県立大学の佐藤哲准教授指導のもと、宇土市網田小学校の6年生12名が参加し、ボランティアスタッフの協力のもとスツールづくりにチャレンジした。使用する廃材は、みんなの家の縁側のデッキ材や、仮設住宅の柱や梁などの大きな部材。組み立てやすいようにあらかじめカットしたパーツを、佐藤准教授が描いた設計図をもとに組み立てていく。生徒1人1脚、合計12脚のスツールを製作。工具を使い、組み立て、できあがったら屋外でも使用できるよう柿渋や蜜蝋でコーティング。学校内のどこで、どのように使うかは、生徒たちの工夫次第。今後の楽しみとなった。

子どもたちの感想

図工が好きだけど、インパクトドライバー（工具）などの使い方が難しかった。だんだん使い方も慣れてきて、ビス打ちが特に楽しかった。（6年生男子）

家が土木関係だから機械には触ったことがあったが、難しかった。コツをつかんだらスムーズにできて、これから使うのが楽しみ。（6年生女子）

甲佐町営白旗団地・乙女団地災害公営住宅が「設計賞－復興デザイン会議－」を受賞しました！

2020年11月16日、復興デザイン会議主催の「復興デザイン会議第2回全国大会」（審査委員長　羽藤英二（東京大学））が開催され、甲佐町営白旗団地・乙女団地災害公営住宅（シーラカンス K&H 株式会社・熊本県・甲佐町）が「復興設計賞」を受賞した。丁寧な配置計画や地域ならではの土間空間等について、農村型の災害公営住宅として質の高いデザインである。地域性を踏まえて、周辺環境に馴染む小規模な住宅のモデルとなりうるとして高く評価された。

復興デザイン会議 第2回全国大会については、こちらから
▶2020年度・各賞の募集 > 審査結果（2020年度）
　> 第2回復興政策・計画・設計賞／復興研究論文賞
http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/conference.html

くまもとアートポリスを県政テレビで紹介！

くまもとアートポリスの取組みである「みんなの家利活用プロジェクト」について、2月3日に熊本県政テレビ「くまモン！ スマイル ジャンプ！」で放送した。
熊本地震で被災者の憩いの場となるよう応急仮設住宅団地に整備した「みんなの家」が、その役割を終えて、地域づくりの新たな拠点等に生まれ変わり、活用されている様子を紹介した。

放送回は、こちらから
▶第38回放送「みんなの家」で地域に笑顔を！
～くまもとアートポリスを後世に～
https://www.kininaru-k.jp/movie/4ch/

みんなの家
― 令和2年7月豪雨 ―

平成24年熊本広域大水害や平成28年熊本地震において「みんなの家」を整備した経験を生かし、令和2年7月豪雨においても、甚大な被害を受けた方々の痛みを最小化し、少しでも安らぎを感じていただけるよう、応急仮設住宅団地の集会施設を木造の「みんなの家」として整備した。12月には6市町村で20棟すべての「みんなの家」が完成している。

「みんなの家」の表札は すべて 県内の高校生が揮ごうした

仮設住宅団地のみんなの家に、国産畳がもたらす癒やしの空間を。

令和2年7月4日未明からの豪雨により甚大な被害を受けた球磨郡球磨村。平成26年の熊本地震の経験で蓄積された仮設住宅の建設ノウハウによって、発災から3カ月後の10月初旬には球磨村グラウンドに木造の仮設住宅団地が完成した。団地内の集会施設「みんなの家」には、熊本県い業生産販売振興協会から贈られた八代産のい草を使った置き畳（9枚：4.5畳分）と畳ベンチ（2個）が置かれ、その贈呈式が行われた。国産の畳にはQRコードのタグがついており、そのQRを読み込むと生産者などの情報を見ることができる。また、当日は仮設住宅の入居日にもあたり、鍵渡し式が行われ、会場には熊本県の花卉協会から贈られた花が飾られた。

球磨村長 松谷 浩一氏 コメント

仮設住宅団地のみんなの家は、気軽に使っていただける空間にしていきたい。みんなの家が団地のみんなの憩いの場になってほしいと願っています。その空間に畳があると、本当にホッとできる。香りがとても良く、ひとときの癒やしをここで感じてほしいと思います。

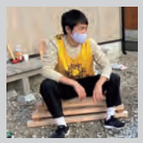
八代市農林水産部 農業振興課 田中 博己氏 コメント

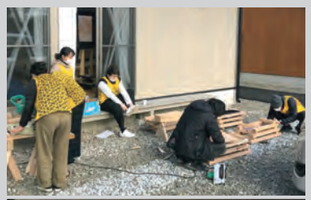
熊本県は畳表の原料、い草の日本一の生産地です。令和2年7月の豪雨被害では、畳までも流された家が多く、ひとときの癒やしの空間をお届けしたいと、今回の置き畳と畳ベンチ贈呈につながりました。国産の約90％以上が熊本県産。その質の良さを感じていただきたいです。

KASEI プロジェクト

山江村で家具の製作を行いました！

九州山口の建築系大学の学生や教員が参加し、仮設住宅等の住環境改善に取り組むKASEIプロジェクト。
熊本地震に続き、豪雨災害における仮設住宅の住環境整備の取組みや、球磨村神瀬地区などで支援活動を始めている。
2020年12月に山江村中央グラウンド仮設住宅団地で家具製作を行った。事前のヒアリングや住人との対話を基に、2大学（九州大学、熊本県立大学）が、プランター置きや靴箱、手すりなどを設計・製作した。また、その材料の一部には仮設住宅建設の際に出た端材も活用された。



九州大学大学院 人間環境学府空間システム専攻修士課程２年
荒木 俊輔 氏

製作した家具によって、仮設住宅の生活が少しでも楽しいものになってほしいと願っています。2020年12月には九州圏の10大学がオンラインで仮設住宅を住みこなすためのアイデアを議論しました。山江村での家具製作をはじめに、コロナ禍における支援活動を模索し、少しづつ展開していきます。